

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200289		
法人名	株式会社 縁		
事業所名	グループホーム倉敷・楽々苑		
所在地	岡山県倉敷市西岡1153番地		
自己評価作成日	平成 27年 3月 19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200289-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200289-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成27年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念の「自然・安心・快適」を元に四季を感じ、安心して過ごして頂けるように、又毎日を快適に過ごして頂けるように職員一同心がけています。  
 ご自分の好きなように自由に過ごして頂けるように、又どのように援助していけば楽しく過ごして頂けるかを考えて毎日を振り返っています。  
 医療・歯科なども往診して頂いています。体調不良時にも早く対応して頂き、医療面にも安心して過ごして頂ける環境づくりをしています。  
 地域の方との交流にも参加させて頂くなどし、楽しく、快適に過ごして頂けるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して8年目になるホームを数年ぶりに訪問してみて、2つあるユニットの1つ、9名中8名と男性色の濃かったユニットもすっかり雰囲気が変わっていた。これまで全体の利用者の半数を占めていた男性が18名中3名になっていた。重度化が進んでいるユニットと軽度な新規利用者が多いユニットの違いも大きく、活気の在り様、雰囲気にもそれぞれ特色がある。1年半前にはグループホームと連動して対応していきたいと併設型の小規模多機能ホームを開設し、運営推進会議等を合同で開催している。小規模多機能ホームから移行してここに入所している人もいる。住宅地の中にありながらまだまだ自然な環境が残るホーム周辺を散歩して、皆で採ってきた「土筆」を利用者に料理方法を教えてもらいながら一緒に作り、副菜の一品に添える等、利用者の自主性を尊重し出来る事を十分に発揮してもらっている。これからのホームの進むべき方向性を模索しながら、新任・現任それぞれの職員のレベルアップを目指し取り組んでいるホームに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「自然、安心、快適」を職員全員が把握し、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えている。	法人の理念を掲げると共に、利用者がどんな生活を望んでいるか、どんな暮らしをしたいのか等、本人の意向に添った個別ケアに力を入れている。また、声かけを重視しながら寄り添うケアを目指して職員は日々、努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会、行事、小学校の行事、地域活動には参加し、交流を深めている。	地域の教会のバザーに参加したり、子供達の訪問や触れ合いもある。高校の和太鼓部の訪問では、感激のあまり涙を流す人もいる等、日頃から地域交流を図っている。地域のいきいきサロンの案内もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内のお祭りや、教会のバザーやお祭り、小学校行事に積極的に参加し、地域貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行っている。他職種の方の参加をいただき、意見を取り入れ、サービスの向上に努めている。	市の介護保険課、高齢者支援センター、公民館長、町内会長、民生委員、近隣の他GH等の参加があり、同法人の小規模多機能ホームと合同で開催している。ホームの活動報告や情報交換をして参加者と意見交換をしている。	定期的に会議を開催しているようだが、記録が不十分で会議内容が把握できないのが残念だ。参加者との質疑応答や意見・提案は記録に残し、今後の運営に反映させて欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加や市の介護保険課へ出向き、事務所の実情等の話をし、協力関係を築くようにしている。	成年後見制度を利用している人や生保も数人いる関係から事例報告等、市の担当者とは日頃からよく連携をとっており、相談する機会も多い。何かあればその都度、電話や訪問をして適切な助言や指導をしてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の研修計画の中での勉強会を行い、共有認識を図り、身体拘束について全スタッフが理解を深めるように努めている。	玄関の施錠はしていないが、安全の為、各ユニットの出入り口はオートロックにしてあり、外出する時は職員がロック解除するようになっている。帰宅願望が強く外へ出る人がいるが、家族と話し合って専門医を受診する予定になっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修計画として勉強会を行い、高齢者虐待防止マニュアルを参考にし、スタッフ全員共同認識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様もおられる。又、勉強会においても制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時より契約に至る間、電話連絡などにより、不安解消に努め、理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等で家族の意見を聞き取り、運営に反映している。又、ケアプランにも本人、家族の思いも反映している。	家族の面会時に話をしたり、必要に応じて電話等で直接、状況報告や意見・要望を聞いている。家族から本人の好きな事をさせてやって欲しいという外出に関する要望がある等、意見や要望をきちんと受け止めケアプランや運営に反映させている。	利用者の担当制を敷いているので、一番よくその人の状態を知っている担当者が例えば、請求書に一筆箋でも添えて家族にお便りを出す等、家族とのコミュニケーションも必要なのではないかと思う。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員の意見を聞いたりしている。定期的にミーティングを行い、意見、提案を出しやすい機会を設け、反映させている。	朝の申し送りの時に、その都度カンファレンスをして、ケアプランの原案も話し合っている。業務日誌や申し送りノートで職員間で情報の共有をしている。職員はそれぞれに行事等の役割を受け持ち、協力して業務にあたっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実践者研修、管理者研修、介護福祉士等資格取得の支援を行い、資格習得後は各自向上心を持ち、仕事に活かせるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は誰でも行けるようにしている。資格習得希望者には勤務配慮をしている。苑内でも勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議やケアマネ交流会に参加させて頂き、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が希望される事、困った事又不安に思っていることを言えるような環境を作り、傾聴共感し、受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは密に連絡を取り、困っていることや不安に思っていることが言えるように傾聴し、受け止められるような環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する段階で本人、家族が必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でされて嫌な事はしない、との思いで職員間で話をし、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人と家族の絆を大切にしながら、本人を支えていける関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの方々との関係が途切れないように電話等支援に努めている。	隣接する小規模多機能ホームからGHIに移行した人は、前居たホームの利用者との交流が続いている。友人・家族の面会もあり、毎月のように孫やひ孫等が面会に来てくれる人や自分で家族に電話をかけて連絡を取り合っている人もいる等、職員はそれぞれの馴染みの関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う合わないを日頃から観察し、入居者同士支え合う雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了し退去されてもいつまでも相談連絡できる関係を維持できるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを傾聴し、意向を職員全員で共有している。	重度化が進んでいるユニットと軽度の人が多いユニットの違いはあるが、自分で意思表示が出来る人とはよく話し合い思いや意向を把握し、難しい人には表情や仕草からその人の心の内を推察するように努力している。自分で洗濯をしたいと言う人には洗濯機で洗ってもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族面会時等にこれまでの本人の生活歴、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動記録、バイタルチェック表、ケアプランにより把握している。連絡ノートにより全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを実施し、本人、家族と必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	昨年10月に就任したAユニットの計画作成担当者は9名中、新規利用者6名のインテークや初回プランを作成した。3ヶ月ごとにモニタリングを行い、本人・家族の意向を基に、職員間で話し合いながらプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を記入し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所同士の連絡情報交換により、本人や家族の希望に添えるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として小学校や教会を訪問し、交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により、かかりつけ医を決めている。かかりつけ医との関係は良く、何事も相談できる体制を取っている。	従来のかかりつけ医を受診している人が多い。原則、家族に受診をお願いしているが難しい場合は職員が同行する事もある。週1回の訪問看護、協力医の2週間に1回の往診の他、夜間・緊急時にも迅速に対応してもらえる。新しく職員に看護師が配置され日頃の健康維持管理が出来るので心強い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師により利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者と話し合いながら早期退院も含め、情報交換できる関係作りが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を聴き、それに添って重度化に伴う意思の確認をし、説明を行って医師の往診を受けれるなど支援している。	昨年、看取りの経験をした。家族から終末期の同意をもらい、往診や訪問看護を利用していたターミナルの人だった。家族も遠方であり職員がエンゼルケアをし、皆で見送った。今後も本人・家族の希望があれば医療機関と連携をとりながら支援していこうと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	皆で勉強会を度々行い、全員で話し合い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害を想定して避難訓練を定期的に行っている。	年2回消防署の指導の下、避難訓練を実施している。平屋のホームの非常口は数カ所あり、避難経路の確認や隣接する小規模多機能ホームとの協力体制も話し合っている。緊急通報装置やスプリンクラーも設置している。職員間で災害対策の勉強会をしている。	ホームは耐震設備の構造であるが、地震発生時の建物の倒壊はなくても室内での転倒や落下物による怪我のリスク等を考え、家具の固定等の災害対策は必要と考える。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、親しみの中に礼節を保ち、本人の希望や意向の把握に努めている。	羞恥心やプライバシーに配慮して、自立や見守りの人の排泄時にはドアを閉め、職員は外から声かけをしたり、必要があれば中からコールを鳴らしてもらっている。利用者とは話す時は丁寧な言葉使いをするように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが自分の思いや希望が言えるような雰囲気をつくり、日々密接な関係が保てるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの身体状況にあった暮らしが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に来てもらい、髪のカットをして頂いたり、男性の方の髭剃りを行う等、身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの身体状況に合わせて、食事や飲み物を楽しめるように支援している。	委託業者の調理済食材を利用している。届いた食材を個々の嚥下状態に合わせ、刻み・トロミ等にして手を加えている。主食がお粥の人もある。全介助の人もあるが、自分で食べている人が多い。食後は自分達から進んで台所に立ち、洗う人・拭く人・片付ける人と3人の連携プレーで手伝っている人達がいた。	食べる事は“元気の源”と言う様に、高齢者の楽しみの一つになっている。元気な人が多い今の状況なら少人数づつ希望者を募って外食に行くのも十分可能だと思う。職員間で話し合ってみてはどうかと思う。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や習慣に合わせた食事量、水分量が確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1人ひとりの状態にあった口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、1人ひとりのパターンに添って自立支援を行っている。	排泄が自立の人は11名。紙おしめの人が4名。声かけ誘導の人が3名いる。半数以上がトイレは自立している。車椅子で一人でトイレに行っている人もいた。トイレには男性用便器もあるが、全員、トイレで座って排泄する事を基本としている。	怪我や体調不良により止む無くベッドで紙おしめを交換する時には、使用済み紙おしめの処理の仕方を工夫する等、衛生面や臭いに配慮が必要と思われる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、トイレ誘導、内服薬等を実施し、スムーズな排泄を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間やシャワー浴など本人の希望に添った支援をしている。	週3回が基本であるが、腰痛予防に良いからと毎日風呂に入りたいたいと言う人が2名いる。希望に添ってAユニットでは毎日風呂を沸かし入浴してもらっている。柚子湯・菖蒲湯をする時もある。二人介助が2名。その他の人は職員が見守りながら自分で入っている。更衣拒否の人もいるが職員が声かけ等を工夫して上手に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣、就寝時間など睡眠パターンを把握し、昼寝やソファでくつろがれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服確認表にて職員は1人ひとりの確認ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意な分野を見極めて一人ひとりの役割や楽しみを見出し、気分転換をして頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族と共に出かけられたり、スタッフと共に地域の行事等にも家族や地域の人々と協力しながら支援している。又、個々の散歩に行かれるなど支援している。	倉敷美観地区へ紅葉見学に行ったり、安養寺の紫陽花、祐安公園の桜等、ドライブを兼ねて外出している。近くのスーパー等買い物に出かける事もあり、郵便局で年金を引き出す人もいる。利用者の希望に添って個別の外出支援をしている。天気の良い日は“土筆”を採りにいく等、よくホーム周辺の散歩をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望もあり、金銭は持たないようにしている。本人の希望で欲しいものがあれば購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をしたり、手紙のやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は季節の貼り絵等を作成し、季節感を取り入れている。又、ソファを置き、生活感を出せるように工夫している。	A・Bユニットのリビングの広さには違いがあり、イベントの時にはお抹茶を点てるという2畳分の畳コーナーやピアノが置いてある広いAユニットで合同で行う。季節の花が飾られ、貼り絵作品が展示されている。見学に来た人に「ここいいよ」「ここにおいて」とホームをPRしてくれる利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士お話されたり、貼り絵や体操をされたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が懐かしいものや写真等を貼られている。家族とお茶を飲んで頂いている。	掃き出し窓になっている部屋は採光が多く明るい。自室でシクラメンを育てたり鈴虫を飼う人もいる。テレビを見たり、新聞を読んだりしてゆっくり自室で過ごす人が多い。家族が季節毎に部屋のレイアウトをする人もいれば、自分達で居心地の良い環境を作るという気持ちを持っている利用者もいて、それぞれ居心地の良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来る事は自分でして頂き、安全かつ自立した生活が送れるようにしている。		